

令和6年度長久手市行政評価票（A票：事業評価票）					対象年度		令和5年度				
事業番号	77	事業名	認知症理解普及啓発事業 （大事業名） 包括的支援事業		担当課		長寿課				
					予算区分（款-項-目-中事業）		3-2-1-4 認知症理解普及啓発事業				
					決算書ページ		27 ~ 介護				
I 基本情報	総合計画	基本目標	4	誰もがいきいきと安心して暮らせるまち		事業開始の背景	高齢福祉・介護保険事業計画に基づき、認知症になっても安心して暮らせ地域を実現するために事業を開始した。				
		政策	3	いくつになっても元気でいきいきと輝けるくらしの推進							
		施策	(2)	介護予防の推進						市民・民間事業者との連携協働の可能性	
	その他	開始年度									
		終了予定年度		☐ 年度 ☒ 未定							
		根拠法令等		介護保険法第115条の44第1項第2号から第5号							
	関連計画		第9期高齢福祉・介護保険事業計画								
	事業の概要・目的	アウトプット（詳細はⅡへ）					アウトカム（詳細はⅢへ）				
		①事業概要 （どんな取組を行うのか）		②活動指標 （取組の進捗をはかるもの。 また、それがどうなるのか）		③中間成果 （①【対象】がどのような 状態に変わるのか）		④最終成果 （大事業の将来像）			
		【対象】 ☒ 市民 ☐ 事業者 ☐ 職員 ☐ その他 対象の数： 約61,100人 【事業内容】 認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る店舗等を増やします。		【アクションプラン指標】 認知症サポーター養成講座受講者数 【その他の指標】 認知症にやさしいお店店舗数		認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続することができる。 （成果指標名） 認知症サポーター養成講座受講者数		大 事 業 共 通 支援を必要とする高齢者が急増しても、自助・互助・共助・公助の各機能が最大限発揮され、高齢者になっても自分らしく暮らせる街となる。			

Ⅱ 活動状況（アウトプットの詳細）	活動指標	活動指標名		単位	基準値（2018年） 目標値（2023年） ※AP指標のみ		区分	R5(2023) 年度	R6(2024) 年度	R7(2025) 年度	R8(2026) 年度	R9(2027) 年度	
		1	【アクションプラン事業】 認知症サポーター養成講座参加者数	人	基準値	1,265	見込	1,400					
					目標値	1,400	実績	448					
		2	【その他指標】 認知症にやさしいお店店舗数	店舗	基準値	-	見込	-	23	25	27	29	
					目標値	-	実績	-					
		3			基準値		見込						
					目標値		実績						
		4			基準値		見込						
					目標値		実績						
	エピソード	事業開始からの経緯											
		認知症の人や養護者への効果的な支援体制を構築するとともに、認知症ケアの向上を図るための取り組みを推進することで、認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続することを目指して事業を実施している。											
		R5(2023)年度の実績、改善したこと。目標が達成できなかった場合はその理由											
		R5（2023）年度は、学校、企業等に対し26回認知症サポーター養成講座を実施した。 継続的に講座を実施し、認知症に関する正しい理解の普及啓発を行うことができたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止や、小中学校のカリキュラムにおいて、講座受講が必須でなくなったことの影響により、受講者数が減少したため、当初の目標値を達成することができなかった。											

Ⅲ 事業の成果・課題分析（アウトカムの詳細）	成果指標（CHECK）	成果指標名（中間成果をはかるもの）		単位	成果指標の推移と目標									
		認知症サポーター養成講座受講者数		店舗	R4 年度		年度		【現状】 R5 年度		R6 年度		R7 年度	
					267			448						
		成果達成状況							指標目標値の根拠					
		D	A. 想定より良い B. 想定どおり C. どちらともいえない D. 想定を下回っている							本市の高齢者福祉計画及び介護保険事業計画				
	評価の理由、分析													
	新型コロナウイルス感染症拡大防止や、小中学校のカリキュラムの見直しにより受講者が減少した。													
	加える変化（ACTION）	今後の方向性（3年～5年先）			今後の方向性の理由									
		B			A. 現状維持 B. 拡充 C. 縮小 D. 廃止 今後も引き続き、市内店舗（薬局など）へ認知症にやさしいお店への登録をアプローチし、登録店舗数を増やし、市全体で認知症の方でも安心して買い物できる環境を目指すため。									
		改善ポイント ※今後の方向性がAの場合は記入不要 (成果指標を踏まえ、総合計画基本目標達成のため、必要性、有効性、効率性、公平性、歳入確保の観点等から見直しの余地のある取組を記入)												
見直しの余地のある取組名			見直しの方向性	理由及び具体的な見直しの内容								見直し可能年度		
1		認知症にやさしいお店登録事業		☐ 拡充 ☒ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止	生活に必要なスーパーやドラッグストアなどに認知症に対する普及啓発を行う。								R6	
2			☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止											
3			☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止											

IV 費用	令和7年度予算の方向性（PLAN）	R7年度の費用（R6年度比）		3年間の推移	(単位：千円)	R6(2024)年度	R5(2023)年度		R4(2022)年度			
		A	A. 現状維持 B. 拡充		事業費	予算	予算	決算	予算	決算		
			C. 縮小 D. 廃止			9,940	10,085	9,305	10,085	9,485		
		理由			特定財源	合計額	5,739	6,085	5,796	6,245	3,083	
		共生社会の実現を推進するための認知症基本法第21条において、認知症に関する普及啓発の推進が位置づけられているため。				(内 国費)	3,826	3,390	3,197	3,497	1,897	
						(内 県費)	1,913	2,695	2,599	2,748	1,186	
						(内 諸収入)	0	0	0	0	0	
						(内 その他)	0	0	0	0	0	
		一般財源				4,201	4,000	3,509	3,840	6,402		
		積算額			R6年度予算の内訳 <細々節名、 予算額、（R5年度予算額）>							
		未定			認知症地域支援推進委託 9,940千円（10,085千円）							